



2025.10.3  
第188号

**発行**  
福島県市町村  
教育委員会  
連絡会  
北耶麻沼  
両支支支

**編集**  
福島県教育庁  
会津教育事務所

**編集協力**  
小・中学校長会

## 「子どもは地域の宝」



猪苗代町教育委員会

教育長 佐藤 隆宏

子どもは地域の宝であり、私たちの未来を照らす希望です。その成長を見守り、育てていくためには、地域・家庭・学校が一体となって取り組むことが不可欠です。地域の力を結集し、あたたかな学びの場をつくることで、子どもたちは安心して夢を描き、挑戦する力を育んでいくことができますと信じています。

そこで、地域資源を活用した学習の創出、放課後の学習支援や体験活動の拡充、地域の大人が子どもたちの成長を見守る居場所づくりなど、様々な機会を地域全体で提供する仕組みづくりが重要になります。

こうした取組は、地域の自然や伝統、文化を次世代へと継承する力にもつながり、町の魅力と活力を高めるものと確信しています。

また、地域・家庭・学校が互いの声を尊重し合い、現場の知恵を施策へと反映させることで、より実効性のある支援を展開することが可能となります。

一、地域住民が講師になり、子どもたちに地域の歴史や文化、昔の遊びなどを教える体

験学習を実施する。  
二、子どもたちが地域の行事や清掃活動にボランティアとして参加し、地域の一員としての自覚を育む。  
三、地域と連携して、子どもたちの安全を見守る活動や、防犯・防災体制を構築する。  
四、生涯学習施設との連携活動や放課後の居場所づくりなど、地域ならではの創意工夫を凝らした取組を行う。

五、地域の多様な人材を教育活動に活用し、学校と地域の相互理解を深める。

困難を乗り越え、より豊かな地域社会を築くことができるよう、地域の力を結集して、子どもたちの成長を軸に町の未来を切り拓く決意を新たにしていきたいと思えます。

これらの実践するためには、子どもの声を聴く姿勢を何より大切に、子どもたちの健全な成長を妨げる要因を的確に把握し、適切な支援へと結びつけていかなければなりません。

管理面では、今年度の管理重点項目である「①働き方改革の推進」「②学校全体の教育力向上」「③不祥事の根絶」について、各校の工夫した取組を伺うことができました。また、今年度から、不祥事の根絶に向けて所長と教職員との対話の時間を設けさせていただきました。対話を通じて、「服務倫理対策会議」や「学校事故防止対策研究協議会」等の会議で、管理職の皆様が研修していただいた内容が、教職員に浸透していることを肌で感じるとともに、各校の課題についても共有できる貴重な機会となっております。

また、訪問を通して、新採用教員や若手教員の育成に職場全体で組織的に取り組んでいる様子を伺うことができました。今後も、各校におけるOJTを充実させることで、授業力のみならず社会人としての力量を高める取組をお願いいたします。

前期の所長（管理）訪問は、六十一校を訪問させていただきました。後期は二十三校を予定して授業参観では、学習規律や子どもと教員の良好な関係が築かれ、子どもたちが安心して取り組む授業や、満足感を味わいながら生き生きと学ぶ授業を数多く目にする事ができました。その一方で、教師が話しすぎる授業もまだ散見されます。教師が「子ども観」「授業観」等の「観」の転換を図るのは容易ではありませんが、主体的・対話的で深い学びを実現するために、教師が「話す」授業から、子どもが「学び出す」「学び合う」「学び取る」授業へと、学びの変革が図られるような取組をお願いいたします。

## 令和七年度前半を振り返って

# 令和7年度 会津教育事務所 指導の重点【後期】

第7次福島県総合教育計画

令和7年度学びの変革推進プラン

## 会津の強み【令和7年度の学校訪問や各校の学力向上の取組、各種研修会協議から】

- 1 児童生徒一人一人の学びの事実を大切にしながら、主体的・対話的で深い学びの視点に基づいたICT活用等の工夫による授業展開など、教職員が丸となって授業改善に取り組んでいる学校が増えている。
- 2 生徒指導の機能やユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりにより、すべての児童生徒の心理的安全性を高める授業や「分かる・できる」授業を目指した授業実践が増えている。
- 3 各中学校区内における学校間の連携体制・協力体制が確立しており、学力向上対策や生徒指導対策について、継続的な指導・支援の推進が図られている。

## 会津の課題【令和7年度全国学力・学習状況調査結果、学校訪問等から】

- 1 全国平均正答率と比較すると、小・中学校ともに各教科において平均正答率が下回っている状況にある。
- 2 「深い学び」の達成に向けた授業改善が必要であり、これまで以上に育成すべき資質・能力を明確にし、「みる・きく・つなぐ」の授業観による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業づくりが求められる。
- 3 不登校児童生徒が年々増加傾向にあり、1,000人あたりの出現率が全国平均や県平均を上回る状況が見られるため、学校（授業）の魅力化や、一人一人の児童生徒への寄り添い、関係機関との連携などのさらなる促進が求められる。

## 学びをつなぐ・育ちをつなぐ会津の教育

### 確かな学力

#### 1 主体的・対話的で深い学びの実現

- 「学びの変革」授業デザインに基づく授業づくり
  - ① 「観」をとらえ直す
  - ② 創意工夫のある単元「題材」づくり
  - ③ 授業段階の重点「学び出す」、「学び合う」、「学びとる」
  - ④ 「学び続ける」ための視点、自己マネジメント力の育成
- 「指導の重点（小・中学校教育版）」の活用
  - ・各教科等の授業の設計・実施・評価の工夫

#### 2 学習の連続性をもたせる基盤づくり

- 「家庭学習スタンダード」に基づく自己マネジメント力の育成
  - ① 授業の学習内容の定着を図る家庭学習
  - ② 家庭学習（復習、予習）を効果的に活用した授業の実施

#### 3 学力向上対策の組織的な推進による授業改善

- 全国学力・学習状況調査、ふくしま学力調査の結果分析と活用（授業改善グランドデザイン参照）
  - ・客観的データに基づく実効性のある改善策の実施
- 教師が「話す」授業から、教師が「みる」「きく」「つなぐ」授業への転換（授業改善グランドデザイン参照）
- 「ふくしま活用力育成シート」、「キビタンシート」の活用
- ICT機器等を効果的に活用した学びの充実

#### 4 カリキュラム・マネジメントの充実

- 育成を目指す資質・能力の明確化と教育課程の意義の共有
  - ・教科等横断的な視点による教育計画の作成と実施

#### 5 教科の指導と生徒指導の一体化

- ①自己存在感の感受
- ②共感的な人間関係の育成
- ③自己決定の場
- ④安全・安心な「居場所づくり」



### 居場所づくりと絆づくり

#### 1 不登校の未然防止・早期発見・早期対応

- 「ふくしまサポートガイド」の活用
  - ① 教師による「居場所づくり」と児童生徒による「絆づくり」を中心とした心理的安全性の確保
  - ② PDCAサイクルによる援助
    - ※アセスメントシート（個別援助計画）の活用
  - ③ より機能的な関係機関との連携及び校種間連携
    - ※「子どものSOSをより早く気づくために」（会津教育事務所作成）の活用
  - ④ 「特別な教室」設置やICT活用による学習機会の確保
  - ⑤ 誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COLOプラン）に基づいた「チーム学校」による支援

#### 2 いじめ見逃しゼロ

- ① 組織による積極的な認知と早期対応
- ② アンケート調査や面談等による状況把握とチーム学校による具体的対応

#### 3 情報モラル教育の充実

- 「ふくしま情報モラル診断」を活用したSNS利活用の適正な考え方や態度の育成
  - ① アンケートによる児童生徒の実態把握
  - ② 回答の分析による問題行動や課題の発見



#### 4 心に響く道徳教育

- ① 学校、家庭、地域が一体となった道徳教育の推進
- ② 児童生徒が自己を見つめる時間を重視した授業づくり

### 共に学び、共に生きる教育

#### 1 校内支援体制の充実

- コーディネートハンドブック【2020年版】の活用
  - ① 特別支援教育コーディネーターを核としたケース会議や校内研修の充実
  - ② 児童生徒、保護者との合意形成に基づく「個別的教育支援計画」や「個別の指導計画」の作成と活用、引継ぎ
  - ③ 上記計画を活用した交流及び共同学習の充実
  - ④ 教育的ニーズの整理の仕方

#### ○ 研修パッケージの活用（県特別支援教育センター）

#### 2 ユニバーサルデザインの視点による授業づくり

- ・教室の環境整備やつまずきを想定した手立ての工夫
- ・認め合い、助け合い、高め合う学級の支持的風土づくり

### 健やかな体

#### 1 体力向上と健康推進

- 「自分手帳」の活用による健康マネジメント能力の育成
  - ① 体力向上推進計画の見直しと評価・改善
  - ② 適切な運動量が確保された息も心も弾む授業の工夫

#### 2 教育活動全体による食育の推進

- ① 肥満防止などの望ましい食習慣の育成
- ② 栄養教諭等の専門家派遣事業の活用



## 育ちをつなぐ学び

#### 1 キャリア教育の推進

- 「キャリア・パスポート」の活用
  - ① 成長の振り返りや将来の生き方を考える学びの充実
  - ② 学年・校種間・高等学校への引継ぎと実践的な活用

#### 2 幼保小連携の推進

- ① 「福島県幼児教育振興指針」に基づく、小中学校につながる豊かな遊びを通じた学びの充実、非認知能力の育成
- ② 幼小の架け橋期に係るカリキュラム作成
- ③ 家庭、地域、関係機関との連携の充実

## 「ふくしまの未来をひらく読書のカプロジェクト」

読書活動推進の取組を実施しています!!

社会教育担当

福島県教育委員会では、「ふくしまの未来をひらく読書の力」を基本理念（スローガン）として福島の子どものために読書の楽しさを実感し、生涯にわたって望ましい読書習慣を身に付けることができるよう、「第五次福島県子ども読書活動推進計画」を令和7年3月に策定し、取組を進めています。その中で、会津教育事務所での2つの取組を紹介します。

### 1 読書活動支援者育成事業会津地区研修会

7月16日（水）に会津若松市北会津公民館において、会津域内の読書ボランティアや図書館支援員、教員等、40名の皆様に参加いただき実施しました。

研修会では、南相馬市立中央図書館から2名の司書の方を招聘しました。前半は、菊地伸江氏による講話「震災を経た南相馬市の魅力ある図書館づくり」、後半は、絵本専門士でもある佐藤真紀氏による「絵本読み聞かせ実践講座」が行われました。

参加者からは、「利用者の皆さんを第一に考えた図書館づくりに見習うべきことがありました。」「読み聞かせの実演を見て、聞き取りやすい声と間の取り方など大変勉強になりました。」などの声をいただきました。

読書活動支援者の育成・資質向上を目的とした本研修を通して、会津域内の子どもたちへの読書推進活動が一層活性化することを期待しています。



〈絵本専門士による読み聞かせの実演〉

### 2 ビブリオバトル福島県大会会津地区予選会

8月30日（土）に会津若松市文化センターにおいて、出場者、観戦者、運営ボランティア等、計87名の皆様に参加いただき開催しました。

予選会では、出場者（中学生6名・高校生5名）が、お気に入りの本を5分で紹介し、その後の質疑応答が2分行われ、計7分の持ち時間で競いました。観戦者は、「どの本が一番読みたくなったか」を基準に投票を行いました。今年度は、西会津町立西会津中学校 山口紗弥さんの『まず良識をみじん切りにします』、福島県立葵高等学校 佐々木優花さんの『きのうのオレンジ』がチャンプ本に選ばれました。山口さん、佐々木さんの両名は、10月12日（日）に福島県立図書館（福島市）で行われるビブリオバトル福島県大会に出場し、県内各地の優勝者と競うこととなっています。ぜひ、応援に行ってみてはいかがでしょうか。

近年、ビブリオバトルは各自自治体・中学校・高等学校にも広がっています。ビブリオバトルに関わる人が増えることで、子どもたちが様々な種類の本に親しみ、読書の楽しみを味わうことができるような取組が展開されることを今後も目指していきます。



〈ビブリオバトル会津地区予選パトラー〉

## 我がまちからの情報発信

昭和村教育委員会

### 村のよさを生かした特色ある教育の実践

本村の小学校は全校児童25名、中学校は全校生徒11名の小規模校で、将来の小中一貫教育を見据えながら地域教材、人材を生かした地域とともに歩む教育活動を数多く展開しています。

特に、昭和村が夏秋期日本一の生産を誇るかすみ草の栽培等を通して学ぶ「**花育**」と、伝統工芸であるからむし織の生産を通して学ぶ「**苧麻育**」は、郷土のよさを生かした教育活動と言えます。

「花育」は、かすみ草農家の方を講師に招き、小中学生が一緒にかすみ草の苗の定植、収穫、調整を行ったり、雪室を見学したり、染色加工を体験したりします。また、中学3年生になると村産業建設課やJA会津よつばと連携し、東京都中央卸売市場で実際にかすみ草の卸売の様子を見学し、店頭販売にチャレンジしてきます。その後、姉妹都市である埼玉県草加市を訪れ、特産品についてお話いただき、特産品のPR方法等についても交流を通して学びます。

一方の「**苧麻育**」は、村からむし振興係や昭和村からむ

し生産技術保存協会、(株)奥会津昭和村振興公社等の関係機関や地域の方々と連携し、からむし織の原料であるからむし畑を見学したり、垣づくり・苧引きなどを体験したりします。さらにはからむし織体験生（通称：織姫）との交流、コースターづくりなどにも取り組み、中学3年時には、地機と呼ばれる伝統的な機を使って卒業制作を行います。

このように本村では、地域のよさを生かした「花育」「苧麻育」が充実しており、義務教育9年間を通して、地域と学校が一体となって、子どもたちに自ら未来社会を切り拓く力を身に付けさせるとともに、いずれは、故郷である昭和村に様々な形で貢献できる人材を育成したいと考えております。



〈小中学生協働で行ったかすみ草の定植活動〉

## 各学校の特色ある取組紹介

### むし歯ゼロを目指して

湯川村立勝常小学校

湯川村では、歯科指導を重点項目に挙げて取り組んでいます。そのため、「福島県学校歯科保健優良校表彰」では、毎年表彰を受けています。

特色ある取組としては、「う歯予防や口腔の衛生についての意識を高め、主体的な実践と習慣化を図る」をねらいに、学校歯科保健計画を作成しています。う歯の早期発見と早期治療を目的として、年2回歯科検診を行うとともに、歯科衛生士による各学級での指導と、個別の歯磨き指導を行っています。さらに、「歯と口の健康週間」も年2回実施しています。1回目は、むし歯なし・歯肉歯垢良好児童を表彰する「よい歯の表彰」及び「親子よい歯の標語」の表彰を行いました。この親子標語は、家庭への啓発という意味でも大変効果的です。優秀賞の作品は、校内に掲示して、子どもたちの興

味関心を高めるのに役立っています。2回目は、よい歯の表彰に加え、歯科衛生士による全体指導も行っています。さらに、村内の小中学校共通の取組として、「ヘルシー10」という生活習慣振り返りシートへの記入を夏休み、冬休みの長期休業に合わせ実施しています。「健康は歯から」を合い言葉に、むし歯ゼロを目指して頑張っています。



〈歯科衛生士による指導〉

### 多様性と包摂性を大切にした教育

磐梯町立磐梯第一小学校

磐梯町は昨年9月に「0-15教育基本構想」を策定し、「多様性と包摂性があたりまえにある世界を子どもと大人でつくる」を基本理念に、0才から15才までの子どもたちの連続した成長に寄り添った教育に取り組み始めました。

この新しい「磐梯の教育」では、多様性と包摂性を大切にし、「共生」「公正」「自治」を体現する人づくりを、幼・小・中が連携して目指していきます。本校で特に力を入れて取り組んでいるのは次の3つです

- ① 小グループによる協働的な学び
  - ・コの字型の机の配置と男女混合小グループによる協働的な学び
  - ・友達との協働によって挑戦するグループ学習（ジャンプの課題）
  - ・聴くことを中心とする授業づくり（無理のない小さい声で言葉を交わし合う静かな教室）
- ② 授業のユニバーサルデザイン（授業UD）
  - ・学ぶ側の立場に立った授業の創造（わかりやすい授業）
  - ・困り感のある児童の理解と支援

- ・選択できる学習活動の工夫

#### ③ 体験活動と交流活動の重視

- ・「ひと・もの・こと」との直接体験と外部人材の活用
- ・異学年交流の充実
- ・ドリーム&チャレンジ特別授業の実施

協働的な学びでは、どの子も友達に受け入れられ、話し合いや学び合いを行います。授業UDを工夫することで、特別な支援を必要とする子どもも安心して学習に取り組めます。交流活動により、自分との違いを感じ多様性を学びます。

これからも一人も独りにしない安心して学べる教室を実現し、多様性と包摂性を大切に教育を推進していきます。



〈小グループによる協働的な学び〉



〈ドリーム&チャレンジ特別授業〉

### 地域の特色を生かしたSDGs体験学習

喜多方市立山都中学校

本校は、SDGsと郷土学習を重視しています。その一例を紹介いたします。

#### 1 山都名産「そば」についての体験学習

標高200m～400mにある山都町。寒暖の差が激しい風土は良質のそばが育つ条件を満たしています。地域の皆様に協力を仰ぎ、全校生で会津在来種「会津のかおり」の種を7月31日（木）に蒔きました。今後は、刈り取り→脱穀→そば打ち→まとも・振り返り→発信、と学習を進めていきます。

#### 2 本木上堰（もときうわぜき）の堰さらい

本木上堰は江戸時代に作られた全長6kmに及ぶ水路です。山都町の本木・早稲谷地区にある約6haの上堰棚田（令和4年「つなぐ棚田遺産」に農林水産省より認定）の水源となっています。冬の間にたまった落ち葉や枯れ枝をかき出す堰さらいボランティアを、5月1日（木）に全校生で行いました。

#### 3 無灌水栽培体験を通したSDGs具現化への挑戦

地域の生産者に指導を仰ぎ、トマトやメロンなどの無灌水栽培体験を1年生が行っています。無灌水栽培は、水源がない土

地でも農業ができ、野草や益虫の力を利用するため、環境負荷を低減させることができます。しかも、甘くて濃厚なおいしい農作物をつくることができます。

これらの活動を通して、地域に誇りをもち、その発展に貢献する生徒の育成を目指しています。



〈水の張った上堰棚田を眺める〉